

令和5年10月16日（月）

日本はすばらしい国

私たちはふだんの暮らしの中で、日本のよさをさほど意識することなく過ごしています。しかし、意識しないことで次第に忘れられていく日本の心や文化があるとすれば、残念なことです。

『日本その日その日(1)』平凡社東洋文庫に掲載されていますが、明治10年(1877)に東京大学の教師として来日したエドワード・モースは、次のように日本人を讃えています。

「自分の国で人道の名において道徳的教訓の重荷になっている善徳や品性を、日本人は生まれながらに持っているらしいことである。衣服の簡素、家庭の整理、周囲の清潔、自然およびすべての自然物に対する愛、あっさりして魅力に富む芸術、挙動の礼儀正しき、他人の感情についての思いやり……これらは恵まれた階級の人々ばかりでなく、最も貧しい人々も持っている特質である」

幕末・明治には多くの外国人が日本へやって来ましたが、彼らは「世界一礼儀正しい」「本物の平等精神が社会の隅々まで浸透している」などと、日本人の心のあり方や生き方を認めてきました。現在に生きる私たちも、誇り高き日本人です。これからも、礼儀正しく、世界に誇るべき道徳性を発揮していきましょう。